

エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションへの日本人専門家参加の概要

参加する専門家：（独）国立国際医療研究センター国際感染症センター
国際感染症対策室医長 加藤康幸医師

訪問予定先：リベリア

参加期間：平成26年8月3日～23日（21日間）

目的：エボラ出血熱対策に関するWHO ミッションに専門家として参加し、現地の疾病発生及び対策状況等について調査及び評価を実施するとともに、必要に応じ助言を提供する。

西アフリカにおけるエボラ出血熱の発生状況（平成26年7月27日現在）：

国	患者数*	死亡者数
ギニア	460	339
リベリア	329	156
ナイジェリア**	1	1
シエラレオネ	533	233
合計	1,323	729

* 患者数は疑い例を含む

** ナイジェリアの症例はリベリアからの輸入症例（未確定例）

過去の実績：

平成12年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHOの要請を受けて、3回にわたり計5名（延べ6名）の専門家が派遣されています。

平成24年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHOの要請を受けて、1名の専門家が派遣されています。

平成26年5月にリベリアに、また、7月にシエラレオネに、WHOの要請を受けて、エボラ出血熱対策の専門家として、それぞれ1名の専門家が派遣されています。

参考（厚生労働省検疫所ホームページ）：

・エボラ出血熱

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name48.html>